



地域とともに歩む病院 —地域連携新時代—

医療法人新青会
川口工業総合病院



「エリアのケアマネさんに申し上げます。病院のレスパイト入院は、思いの外、患者様にとって安価で、安心感の高いサービスです」

埼玉県川口市青木に拠点を構え、1999床のベッドを備える「川口工業総合病院」。同病院は、エリアの中核病院として川口の住民に認知されていますが、ここに来て、地域の診療所や居宅支援事業所との連携をさらに強めるアクションを展開しています。こうした試みは、どんな目的で行われているのでしょうか。そして、その試みによる「高齢の患者様や介護者へのメリットはどのようなものなのでしょうか。」

JリーグやXリーグに、チームドクターを配する

「川口工業総合病院様と言えば、整形外科、特にスポーツ関連の治療に強いことで知られています。まずは、病院の概要について教えてください。」

1999床の病床を備える当院は、川口市エリアの中核病院として地域医療を担っています。整形外科は膝など下肢全般と肩の疾患を主に診療しており、特に、前十字靭帯損傷や膝蓋骨骨折などスポーツ整形外科関連の手術については定評があります。サッカーのJリーグやアメフトのXリーグ、ジャパンラグビーリーグに

チームドクターを配している他、スポーツの一流選手の診療を数多く手掛けています。

また、股関節や膝関節などの人工関節手術も長年行っており、2000例以上の実績があります。整形外科分野については、地域のみならず広く全国から患者様が集まる一方、川口市で最も早く心臓カテーテル治療を導入した循環器内科、消化器内科と外科を合わせた消化器センターを中心に、眼科、泌尿器科、血管外科などの診療科においては、地域に密着した医療を提供しています。乳腺外科は、独立した診療所となっており、病変の発見率の高い3Dマンモグラフィーを導入するなど

「プロの医師もつかみ難い「個々の病院の強み」。私の仕事は、その理解を深めることです」

かかりつけ医の方々から、当院への患者様の紹介を増やすための試みとして、地域の診療所を直接訪問し当院の診療機能などについて、整形外科以外の診療科のことなど、十分に知られていないことも含めてご説明しています。

診療所からの紹介状を分析し、例えば、膝のケガでご紹介をいただくことが多い診療所に対しては、膝以外の下肢や肩の手術も行っているというお話をし、患者様を紹介していただける可能性を広げるよう努めています。

当院について知っていただき、患者様や診療所側が必要とする医療にスムーズにつながられるように取り組んでいます。



川口工業総合病院
地域連携支援室
副主任
岡野 航さん

充実した診療体制です。

病院が実施する「レスパイト」にある
大いなるメリットとは？

「病院名に「工業」という言葉が入っているのはなぜですか。」

川口は、「鋳物の街」として知られています。当院は、1959年に川口市内の鋳物関連企業などの健康保険組合である「川口工業健康保険組合」の直営病院として創設されました。病院名は、その名残です。2010年に医療法人となり、現在は特定の業界と結びつきがあるわけではなく、地域に開かれた病院とな

っています。

「高齢者を支える医療という点では、地域包括ケア病棟を備えています。急性期治療を終えた患者様や在宅療養中の患者様が、最長60日間入院してリハビリや治療を受ける、在宅復帰を支援するための病棟ですね。」

当院は整形外科手術が多いため、手術後のリハビリを必要とする患者様が多いという事情に加え、在宅で療養している患者様の受入れを進めていこうという方針のもと、地域包括ケア病棟を創設しました。それにより、地域とのつながりを強めていくという側面もあります。在宅で介護

を担っているご家族の負担を軽減するための一時入院であるレスパイト入院を含め、在宅の患者様をさらに受け入れていきたいと考えています。

「介護者の方々にとって、介護で心身が疲弊した時、一時的な入院という形で病院にご本人のケアをお任せできるのは非常に心強いことです。レスパイト入院の受入れに関して、条件などはあるのでしょうか。」

入院に際して、「このような病状でなければ受け入れられない」といったルールは、特にありません。1日あたりの入院費用の目安は、1割負担の場合、入院費と食費、衣類



「プロのケアマネジャーの病院を利用することへのハードルを下げることも、私達の仕事です」

医療法人新青会 川口工業総合病院

地域連携支援室
課長・渉外担当

日景 忠相さん

病院データ

所在地：埼玉県川口市青木 1-18-15
診療科：内科、循環器内科、神経内科、消化器内科、消化器外科、外科、血管外科、乳腺外科、整形外科（人工関節センター、スポーツ関節鏡センター併設）、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、皮膚科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、救急科
ベッド数：199床 開設：2010年6月1日



川口オートレース場。売上げ、入場者数ともに全国に5つあるオートレース場の中のトップ。「オートのメッカ」だ



病院は、埼玉高速鉄道「川口元郷」駅、2番出口より出て徒歩約5分程の所にある。JR京浜東北線「川口」駅からは、バス7分



川口市江戸袋の「川口新郷工業団地」。鋳物関連の工場が多い。2019年、川口新郷工業団地協同組合は、創立50周年を迎えた



一般に、川口は、「鋳物と植木の街」と言われる。緑化センターは、植木、盆栽、造園などの緑化産業が盛んな川口の代名詞の1つ。安行（あんぎょう）地区にある

ウィズコロナ時代の入退院支援室

—退院支援看護師、医療ソーシャルワーカーから「一言アドバイス」—

ご高齢の方、そして、その介護者にとって、入院、退院は、一大事です。こんな時、病院内で、一番、困った私達に寄り添ってくれるのが、入退院支援室にいる医療ソーシャルワーカーさんや退院支援看護師さんです。こうした専門家の方は、今、何を考えているのでしょうか。「一言コメント」をいただきました。

- 【質問】
- ① コロナ感染症の影響下で、患者様に安心して受診していただくためにどんな工夫をされていますか？
 - ② コロナ感染症の影響下で、円滑に退院支援のお仕事をしていくためにどんな工夫をされていますか？
 - ③ 現在のお仕事をしていく上で、高齢の患者様、あるいは、そのご家族に理解していただきたい点は何でしょうか？
 - ④ 御病院の特長、セールスポイントはどこでしょうか？
 - ⑤ 現在、介護をしているご家族に、メッセージ、助言を頂戴できれば幸いです。

患者様、施設側にも、
不安のない退院に努めています。

川口工業総合病院
地域連携支援室
主任・
社会福祉士
齋藤誠二さん



② 新型コロナウイルス感染症の患者様に関しては、厚生労働省が示す退院基準（発症日から10日間経過し、かつ症状軽快から72時間経過した場合などに退院可能とする）に基づき、退院の調整をしています。患者様が老人ホームなどの施設の入居者である場合、施設側が退院後の受入れに関して慎重な姿勢をとるケースもあります。施設側と相談を重ね、必要であれば入院期間を延ばすなどの対応を検討し、施設側にとって不安がなく、患者様にとって負担のない形で退院していただけるよう努めています。⑤ ご本人の入院を境にご自宅での介護が始まるケースでは、入院中に退院後の生活のイメージを持つておくことが大切です。そのために必要な材料、例えば、介護保険に関する情報などを私達にご提供します。その上で、ご本人とご家族にとってどのような選択をするのが最善かを一緒に考えていきましょう。限られた入院期間の中で納得のいく答えが出せるようサポートさせていただきます。

コロナ感染症の影響は大きい。
面会禁止へのご理解をお願いします。

川口工業総合病院
地域連携支援室
社会福祉士
櫻田瑞穂さん



① ② 感染リスクを避ける観点から、入院患者様のご家族が退院に向けた相談などで頻りに来院せずに済むよう、入院当日に必要な事項をできる限りまとめてご説明したり、面談の代わりに電話でお話をさせていただいたりしています。③ 3月以降、入院患者様への面会を原則禁止とさせていただいていますが、それでも強く面会を望まれるご家族もいらっしゃいます。感染拡大防止のための措置であることをご理解いただければと思います。入院中のご本人の様子を知りたいというご家族のお気持ちに沿えるよう、リハビリの進捗状況などをできる限りお伝えするようにしています。④ ⑤ 当院は、地域包括ケア病棟を備えており、在宅で療養している患者様の受入れにも力を入れています。私は、現在、この病棟を担当しています。ご家族に介護疲れなどの問題が生じた場合には、一時入院という形で、ご本人にこちらで過ごしていただくこともできますので、気軽に「ご相談していただきたい」と思います。



やタオルなどのアメニティ代を合わせて6000円程度です。特定疾患がある方など医療費の自己負担が免除になるケースでは、食費とアメニティ代のみとなります。

当院としては、在宅で療養している方に定期的に利用していただくことが理想と考えています。実際、在宅の生活と当院への入院を1か月ずつ交互に20回以上繰り返し返している患者様もいらっしゃいます。レスパイト入院は、介護者を支援するケアマネジャーを通じて入院に至るケース

が多いので、ケアマネジャーから当院への相談をしやすいすることも課題です。ケアマネジャーの方にとって病院への問い合わせは、心理的なハードルが高いのではと思いますが、検討段階でも不明な点があれば担当者にご説明いたしますので、気軽にご連絡をいただければと思います。

「末期がんの患者様」の記憶
「頭から離れることのない」
「かかりつけ医との連携強化にも取り組んでいるそうですね。」



病院の隣にある乳腺外科診療所。進行がんの発見率の高い「3Dマーマグラフィ」を導入している

「かかりつけ医からの紹介で当院を受診される患者様の数は増えており、現在は、入院患者様の約5割を占めます。地域の診療所に対して当院の強みなどを積極的に周知していくことで、診療所側も患者様のニーズに合わせた的確な紹介が可能になり、患者様と医療のミスマッチをなくすことにつながると考えています。

最後に、1つ私どもの読者にアドバイスをいただければと思います。高齢の入院患者様が退院後、1日も早く落ち着いた生活を取り戻すために、ご家族は、どんな点に心掛けるべきでしょうか。

「こうしたい」というご家族の思いを、退院支援部門のスタッフやケア

マネジャーに率直に伝えていただくことが大切だと思います。

私が、以前、訪問診療のスタッフとして、ある末期がんの患者様の退院後療養に携わった時のことです。「最期の時間を「自宅で過ごしたい」というご本人と奥様の希望を受け、訪問診療の医師や訪問看護師もそれを精一杯サポートしようと、訪問回数を増やすなど手厚い体制を用意しました。しかしながら、お看取りの後、奥様が「最期は、もつと夫婦2人だけでゆっくり過ごしたかった」と話されていたことを知りました。

少しでも、不安なく過ごしていただけるようにと全力を尽くしたつもりでしたが、結果として思いに沿えず、「もつと率直なお気持ちを聞き出せていれば」という悔いが残りました。退院にあたっては、どんな要望でもお伝えいただけてかまわないと思います。「退院までの時間が短く、もう少し考える時間が欲しい」ということであれば、別の病棟に移っていただくなどの対応も考えられます。まずは、「ご要望をお伝えいただければ、それに可能な限り沿う形でご提案をさせていただきます。」

——ありがとうございます。